

NSW州予防接種スケジュール

NSW州保健省のウェブサイトにある現行のNSW州予防接種スケジュールをご覧になりたい方は下記へ:

www.health.nsw.gov.au/immunisation/schedule

Save the Date to Vaccinate

早くから赤ちゃんを守り、重度の病気になるリスクを避けるためには、予防接種を**遅れず**に受けることが重要です。携帯用アプリSave the Date to Vaccinateを利用して、お子さんが遅れずに予防接種を受けられるようにしましょう。



Save the Date to Vaccinate のウェブサイトにある情報や資料をチェックして役立つものを利用しましょう。お子さん用にパーソナライズされた予防接種スケジュールの印刷ができ、ビデオもご覧になれます: www.immunisation.health.nsw.gov.au



ブルーブック (お子さん個人の保健医療記録)

予防接種を受ける際は毎回、必ずお子さんのブルーブックを持っていき、医師か看護師に受けた予防接種を記録してもらいましょう。

大人用予防接種記録フォーム

www.health.nsw.gov.au/immunisation から入手可能な大人用ワクチン接種記録フォームを利用して、ご自分の予防接種も記録しておきましょう。

より詳しい情報は

NSW州保健省ウェブサイト

www.health.nsw.gov.au/immunisation

オーストラリア児童予防接種登録簿ウェブサイト

www.humanservices.gov.au/customer/services/medicare/australian-childhood-immunisation-register

オーストラリア連邦政府保健省 予防接種プログラム

www.immunise.health.gov.au

NSW州百日咳出産前予防接種プログラム

www.health.nsw.gov.au/protectnewborns

妊娠

妊娠前から 出産までの 感染予防と 予防接種



妊娠前

妊婦の免疫は赤ちゃんにうつり、予防接種を受けられるようになるまでの生後数週間の間、感染症から赤ちゃんを守ります。このため、妊娠する前に必要な予防接種はすべてしておくことが大切です。感染症によっては、妊娠中にかかるとういへんな問題を生じることがありますので、妊娠前に予防接種を受けることが最良の対策です。免疫があるかどうかは簡単な血液検査で確認できます。

麻疹・おたふくかぜ・風疹 (MMR)

妊娠中に麻疹やおたふくかぜ、または風疹にかかると流産したり、早産になったり、重度の先天性異常のある赤ちゃんが生まれたりする場合があります。免疫のない方は予防接種を受けるべきです。また**接種後 28 日以内は妊娠しない**ようにすることも大切です。

水痘 (水疱瘡)

水疱瘡は妊娠中にかかるとういへんな原因となる場合があります。免疫のない方は予防接種を受けるべきです。また、**接種後 28 日以内は妊娠を避けなければなりません。**



妊娠中

B型肝炎

B型肝炎は分娩時に赤ちゃんにうつることがあるため、妊婦は全員がB型肝炎の検査を受けます。B型肝炎にかかっている方は専門医に診てもらい、分娩直後に赤ちゃんは「免疫グロブリン」と呼ばれる薬を使った治療を受け、B型肝炎ワクチンの接種を受ける必要があります。この治療を受けない赤ちゃんは慢性のB型肝炎になる可能性があり、これが重症化して肝障害や肝臓がんになる場合もあります。

百日咳

百日咳の予防接種は妊娠のたびに妊娠第三期中(できれば 28 週目)に受けるのが最適です。抗体が子宮内で赤ちゃんにうつるので、これを受けておけば母子ともに百日咳を早めに予防することができます。妊娠中に百日咳の予防接種を受けることは妊婦にとっても胎児にとっても安全です。

またパートナーや配偶者、赤ちゃんの祖父母など、この他にも直接赤ちゃんの世話をする大人の中には、過去 10 年間に百日咳ワクチンの接種を受けていない方がいる場合には、赤ちゃんが生まれる少なくとも 2 週間前までにこの接種を受けてもらうようにすべきでしょう。

インフルエンザ

妊娠中にインフルエンザにかかると大きな問題になることがあり、早産や低出生体重児が生まれるリスクが高くなります。インフルエンザの予防接種は効果があり、妊娠中に受けても安全ですので、妊娠している女性は必ず受けるべきです。インフルエンザのワクチンは妊婦の方には無料で提供され、子宮内の胎児がインフルエンザから守られるだけでなく、生後最高 6 か月までインフルエンザを予防できます。

出産後

母乳を与えている場合でも、出産直後に通常の予防接種を受けても安全です。妊娠第三期に百日咳ワクチンを受けなかった場合には、退院前にこのワクチンの接種を受けておくべきです。

新生児の最初の予防接種はB型肝炎に対するもので、生後すぐに受けることが奨励されています。次に予定されている予防接種は生後 6-8 週間で受ける必要があります。

B型肝炎に感染している母親の赤ちゃんはB型肝炎ワクチンのコースを受け終わってから 3 か月後に血液検査を受け、免疫があるかどうか確認する必要があります。NSW 州保健省からご自分とかかりつけの医師にリマインダーレターを送ってもらうこともできます。

妊婦の免疫は赤ちゃんにうつりますので、必要な予防接種はすべて受けておくことが大切です。